

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要】**

事業所番号	1270201070		
法人名	有限会社 福老の家		
事業所名	グループホームあんしん苑		
所在地	千葉県花見川区横戸町893-1		
自己評価作成日	平成30年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要】**

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	平成30年11月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】**

たくさんのご利用者様、ご家族様、近隣住民の皆様を支えて頂き、開設から12年が経ちました。素敵なお出合いに恵まれて、相変わらず、ゆっくりのんびり毎日過ごしています。個性豊かな入居者の皆さん、今日もお散歩に出かける方、お買い物に出かけた方、お友達との長電話を楽しんでいる方、お風呂から歌声も聞こえます。あんしん苑では、集団行動がほとんどありません。各個人がしたいこと、行きたいところを職員が伺います。お話しできる方にはおしゃべりの中から教えていただきます。お話の難しい方にはじっくり時間をかけて反応や表情からご要望を推し量るよう努力しています。皆様の自立度は様々ですから、関わり方もまた、様々です。そんな日々を過ごしながら「このご縁を最期まで」と、終末期介護にも長く取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】**

〈今までの生活リズムをお手伝いする〉との方針の下、利用者一人ひとりの自由を尊重した運営を行っている。好きな時間に起床して食事、好きな時間に入浴や散歩、消灯時間は自由。利用者は自由気ままな生活を楽しんでいる。会議では、様々な意見を聞き、結論を出し、実行に移している。家族からの要望、「ホームからの電話はゾツとする」に応えるためLINEを導入。利用者の日常をリアルタイムで家族に送信できるようになった。職員からの希望、「手書き日報などの事務負担を軽くし、介護時間を増やしたい」に対しては音声入力ができる介護支援ソフトを導入した。事務効率が良くなり、その分を利用者との会話や介護に向けられるようになった。苑長をベテラン職員たちが支え合い、問題点の一つずつクリアして進む姿勢が感じられるホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の一部に掲げている「行動の支援」がワンパターン、先細りになっている。外出支援励行の担当者を設置して改善を図る。	「選択の支援、決定の支援、行動の支援」を理念として入居者に接している。外出支援のため、今年初め担当者を2名設置した。利用者は散歩だけでなく図書館へも行けるようになり、外出先の選択肢が広がった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学生の校外学習の受け入れをしている。以来、苑前での挨拶や近くのスーパーで交流がある。	地域のボランティアが毎月訪れての傾聴の会、歌の会、琴の会が10年近く続いており、大きな楽しみとなっている。小中学生の校外学習も続いており、利用者と馴染みとなり、外出先で会った場合は言葉を交わしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献	介護相談の窓口として、職員の紹介で在宅での認知症介護の相談を受けている。継続中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あんしんケアセンター、ボランティアの方からは地域の情報や他施設での取り組みなどを教えてもらっている。新たに「草取りボランティア」の紹介もしていただいた。	運営推進会議は3か月ごとに開催し、あんしんケアセンター、地域ボランティアの会や家族代表が参加している。「職員の不適切な声掛け事例」等についても、包み隠さず説明するなど、開かれた運営を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話問い合わせの他に、グループホーム連絡会などの懇談会でもコミュニケーションが取れる。質問には後日メールで返答もいただける。	市の社会援助課や高齢者施設課とは月に1回程度は電話を通じて相談にのってもらい、大いに助かっている。苑長がグループホーム連絡会の役員をしており、近隣約20のホームとも緊密な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	前回の外部評価以降も引き続き身体拘束はない。	市主催の研修会に出席するなど、外部研修に積極的に参加している。受講後は伝達講習を行い、職員の認識共有とレベルアップを図っている。新制度の趣旨に沿って虐待防止委員会を9月に立ち上げた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に外部の研修に参加し、新たになった虐待防止委員会にもフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に管理者が成年後見制度を取り扱うNPO法人に参加し、後見人活動を始めた。入居希望の際、家族構成によっては後見人の設定をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は丁寧に行い、契約やその後の事も含めて案内の別冊子を作製した。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのリクエストでLINEを活用している。リアルタイムの状況が知ることができる他、気軽に管理者とコンタクトが取れると好評。	「ホームからの電話が鳴るとドキッとする」との家族の声があり、9月から約半数の家族とLINE交換を始めた。入居者の日常生活や行事参加の写真などを随時送信できるようになり、家族との情報交流が多くなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3か月に一度行ってきた個人面談を、各職員の要望に沿って行うことにした。より密な面談の機会を希望する職員もいる。	職員からの要望を受け、個人面談は従来の3か月毎から月1回に変更した。契約更新や処遇、ストレスケア、仕事の振り返りなど本人の希望を聞いている。ボーナス支給時に処遇改善手当などの説明をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の特性を考慮した担当職をキャリアパスとして設定した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は画一的でなく、各個人の不足している部分を補うメニューにしている。外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修ではよい刺激を受けているようで、他施設との横のつながりができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室作りの際、慣れ親しんだものを持ち込んでいただくようにし、コミュニケーションの部分では特に積極的に関わる職員を設定してより早く人間関係を構築できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の現状を把握するため、ご家族から聞き取りをし、ご本人史や細かな要望を書き出させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人の生活の場を訪問することで、課題を見つけることができ、支援の導入部になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あんしん苑での「自分の役」を見つけていただき、それを維持できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診対応など、ご家族にも役割があることを入居時に了承していただく。また、受診に至る経緯を把握していただくためにも日ごろの情報提供は密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長くかかりつけの医師とのかかわりがあれば、継続していただきたいと願っている。また、ご家族のご理解があれば、お友達の来苑も願っている。	10年来、歌や傾聴のボランティアが来訪しており馴染みの関係になっている。恒例の年末の餅つきとおせち作り、初詣等幼少時よりの楽しみを支援している。また毎週自宅に戻り夫と過ごされる方もあり、各々の馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行、人柄、症状を考慮して食事席を組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りさせていただいた方のご家族と年賀状のやり取りなど続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース担当を設置し、なじみの関係を構築している。また、職員には言いづらいことも傾聴ボランティアを担当制で設置することで、隠れた要望もくみ取れるようにしている。	入居時に、家族に「生育歴シート」の記入を依頼し、本人の人となりの把握を図っている。ケース担当職員を配置しより細やかな眼差しで、日常の会話や行動等から本人のしたいこと・行きたいところ等意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活の場への訪問、ご家族からの聞き取りに加えて、利用していたサービスがあれば情報提供を受け、生活の全体像を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の現状を把握するために、個別の担当を設置し、細かな観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族とは手紙、メール、LINEなど使いコミュニケーションを密にとっている。また、担当医とも長いお付き合いになっており、意思疎通が図れている。	介護記録等は本年11月から介護支援ソフトを導入した。何か所かに同じことを記入することもなくなり、気づき等をすぐにタブレットに書き込んでいる。日々の臨場感あふれるその記録と職員の意見等を基に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の収集、共有をケース担当中心に行い、気づきの点なども記録物で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員では行き届かない野外活動など、ボランティアの協力を得て実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアで交流していた方が、さらに地域の専門職の方を紹介していただき、庭木の手入れなども協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係性のできている、従来のかかりつけ医がある場合は入居後も受診を継続していただけるようにご家族に打診している。	24時間対応を含め3契約医療機関があり、毎週来診をはじめ各医師の来診や、歯科医週1回・看護師・訪問リハは週2～3回等来苑している。入居前からのかかりつけ医受診は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	長く固定の看護師が訪問していることで、日常の微細な変化への気づきがあり、入居者自身も安心しておられるようで、ご自分で痛みの相談などされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	一日でも早く退院させてほしい旨を入院時にお伝えし、パンフレットの持参などで、今後の連携ができるよう働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアプランの更新時にはおしゃべりという形で、必ずご本人と終末の会話をしている。また、その内容をご家族にもお伝えしている。	終末期の希望については介護計画の更新時に、本人と話し合い、本人の意向を家族にも伝えて共有している。開設当初から看取りに取り組んでおり、お見送り後に家族から「ここでよかった」と感謝と労いの言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習を順に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は職員配置の少ない夜間を想定して行うことで、実践方式で、コンパクトに何回も実施できている。	夜間想定で今年も4月・7月・10月と3回避難訓練を実施した。都度出火場所を変えて緊張感をもった訓練になっている。消防署から水消火器を借り出し、消火訓練も実施した。食料の備蓄と、緊急時対応は近くの特養と連携がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方との会話は敬語を使うことになっている。	利用者との会話は敬語で話すことを実践している。職員がICレコーダーを携帯して言葉遣いの振り返りを行うなど相互研鑽も行うとともに、申し送り等を利用者に聞こえる処で行わないなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、ご本人の希望や意思を知り、認知症だからと職員が決めつけることのないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの様子を見ながらお誘いや声掛けをしているので、団体行動はあまりなく、個人、または少人数での行動が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みで在宅時に揃えられた衣類を持ち込んでいただいたり、ご入居後に職員と買いに出かける方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳は入居者の方中心に行っており、冷蔵庫にはそれぞれのお好きなご飯のお供など入っている。	配膳・下膳・食器洗いなど出来る方は積極的に行っている。大型冷蔵庫には利用者毎の好みの箸休め等が入っている。毎年末には餅つきをして雑煮など頂いている、また毎月の外食会では喧々譁々お店選びも楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時間を固定せず、各自のペースで召し上がっているため、食事介助や見守りにもゆとりがある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事時間が同時ではないので、口腔ケアの漏れがないように気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本当に必要なものなのか、惰性でないか、職員の都合ではないのか、アセスメントのたびに見直しを行っている。	おむつの方にもトイレでの排泄に近づけたいとの苑長の強い思いがあり、おむつくりハパンクパッドと「より小さく」を合言葉に支援に努めている。「好きでつけている人はいない」をモットーに、入居当日からおむつ外しを行い小まめな声掛けでおむつの無い排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方に合うタイプの下剤を検討したり、水分摂取量に配慮するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に入浴したい方、夕方、夜に入浴したい方といらっしゃるため、お誘いのタイミングに配慮している。	午前中の方・夕方や夜に入浴したい方と、各々まちまちの入浴希望があり、職員の配置を考慮しながら希望に添える様配慮している。また嫌がる方には時間帯の変更や言葉掛けなどで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早寝早起きの方、夜更かししてゆっくり起きたい方、体力がなく、長時間まとめて眠れない方などいらっしゃるため、ひとくくりの消灯時間などは設定していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録をWEB管理にし、薬情も連動閲覧できるように設定(試行中)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好きなこと、得意なことを活かして役割としてお願いしている。(庭木の手入れ、家事、人のお世話など)ご本人も自分の役としてとらえてくださっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	チラシを見ながら話の流れでファミレスに出かけたり、お墓参りなどは特別なプレゼントとしてこちらでお連れすることもある。	日常的にはホーム周りの散歩や買い物に行くなどしている。また平和公園の花見や佐倉のチューリップ見学等に出掛けている。誕生日は本人が主役の特別の日として、本人の希望するお墓参りなど個別対応で支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の承諾があれば、なくす可能性があっても上限を決めて所持していただく。そのほうが落ち着いて生活されることも多くある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分の携帯電話をお持ちの方もいらっしゃる。ホームの電話はいつでも利用でき、ご家族と長電話を楽しんでおられる方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花の先生だった方に玄関のお花を活けていただく。 ご本人も自分の役割として喜んでくださる。	玄関、廊下、居間、台所、食堂はどこも広く、明るい日差しが差し込んでいる。玄関には、利用者が自身の役割として毎回活けているお花が飾られ季節感を醸し出している。ユニット間の行き来も自由で、利用者同士も馴染みになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の突き当たりや、玄関先にベンチを設置している。 気の合う方同士、内緒話や日向ぼっこなどされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお部屋を再現していただくようにご家族にご協力いただいている。 女性ではお仏壇の持ち込みも多い。	入居前に使用していたタンス等を持ち込み好みに配置している。仏壇を持ち込む方も多く、心の安寧に繋がっている。入居前の居室をそっくりそのまま再現している方もあり居心地よく過ごせる工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが自由にあとから設置できるように、壁には下地が入っている他、台所はシステムキッチンの足を切って市販のものより10センチ低くしてある。高齢女性には使いやすい高さになっている。		